

## ルクセンブルク経済・金融情勢（2015年2月後半）

### 1. 経済

- 経済省によると、当国における宿泊者の約60%は会議等に出席するビジネス旅行者。同省は、17日、いわゆるMICE（meetings, incentives, conventions and exhibitions）セクターに対する新たな補助金制度を発表。（18日付ヴォルト紙電子版）
- 政府とSES社によって新規設立された合弁企業LuxGovSat社、軍事周波数を用いる衛星SES-16/GovSatの製造を米のOrbital ATK社に発注。（16日付SES社プレスリリース）
- SES社、2014年の収益は19億1910万ユーロ（前年比+4.0%）、純利益は600.8百万ユーロ（同+6.0%）と発表。（20日付SES社プレスリリース）
- 2015年1月の失業率は7.0%（前月は7.0%、前年同月は7.1%）。（23日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 欧州委員会によるEU世論調査であるユーロバロメーターによると、ルクセンブルクでの回答者の56%が最悪の時期はまだ来ていないと回答し、EU平均よりも悲観的。一方、86%が現在の家計状況に満足と回答し、これはEU加盟国中最も高い割合。（25日付ヴォルト紙電子版）
- 欧州及び米国の労働組合、米マクドナルドがルクセンブルクの子会社を經由して欧州全体で10億ユーロ以上の租税回避措置を行っているとのレポートを25日に公表。2009年から2013年までの間に同子会社は37億ユーロの収益に対して16百万ユーロしか納税していない旨指摘。（26日付ヴォルト紙電子版）

### 2. 金融

- 2014年12月末における当国銀行資産残高は約7391億ユーロで、前月比▲2.1%、前年同月比+3.2%。2014年12月末時点での当国所在の銀行数は148。（17日付中央銀行プレスリリース）
- 独コメルツバンクのルクセンブルク拠点、東欧への業務のアウトソーシングを行う旨公表。当国における労働コストの高さが要因。（17日付ヴォルト紙電版）
- ロイヤルバンク・オブ・スコットランド（RBS）、同行の再編に伴いルクセンブルク子会社の業務を終了、ルクセンブルクから撤退の予定。約100名の雇用に影響。（26日付ヴォルト紙電子版）
- フランクフルトに所在する独コメルツバンク本社がルクセンブルクでの脱税

の容疑者捜査のため独当局による捜索を24日に受けた旨、南ドイツ新聞が報道。同行は10年以上前の事案であり、現在は透明性を確保し、捜査にも協力している旨コメント。（25日付ヴォルト紙電子版）

### 3. 政府

●グラメーニャ財務相、ブリュッセル開催のユーログループ（16日）及びEU財務相会合（17日）に出席。（13日付財務省コミュニケ）

●マルムストロム欧州委員（貿易担当）、26日にルクセンブルクを訪問。ベテル首相、シュナイダー副首相、アセルボーン外相等と会談。（26日付政府公報）

※ 当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。